

式 辞

まず、はじめに、昨日の未明に発生した島根県西部を震源とする地震では、ケガをされた方、日常の安定した生活が一変し、避難生活やライフラインの損壊により不自由な生活を送っていらっしゃる方々にお見舞い申し上げますとともに、いち早く普通の生活が取り戻せますようお祈りいたします。

大雪に見舞われた今年の冬も終わり、生きるもの全てに生命の息吹がみなぎる希望の季節を迎え、本日ここに平成30年度島根県立松江農林高等学校入学式を挙げていきますことは、誠に喜びに堪えないところでございます。ただいま入学を許可しました新入生160名の皆さん、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。皆さんの本校への入学を私たち教職員一同、そして後ろにいる生徒とともに心から歓迎いたします。

本日は島根県教育委員会から柳楽 眞吾様、松農会会長 浅野 俊雄様、PTA 会長野々村 卓也様をはじめ、ご来賓の皆様には公務ご多忙の中ご臨席を賜り厚くお礼申し上げますとともに、日頃から本校の教育活動に対し、格別のご理解とご支援をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、本年度の入学式は119回目の入学式です。1900年（明治33年）に創立した伝統ある松江農林高校の生徒としての第一歩が今日から始まります。皆さんは本校を希望して、生物生産科、環境土木科、総合学科それぞれの学科に入学してくれましたので、それぞれの学科で何を学ぶかはだいたい分かっていると思いますが、本校は、農業・農業土木や農業関連産業のこと、そして福祉を学ぶ学校です。島根県の農業、園芸、土木・建設業、造園業、食品産業そして地域の産業や文化を支える専門的な知識と高い技能をもった、将来のスペシャリストを育成する高校です。

昨日の始業式では、『誇れ！輝け！地域の希望となれ～とともに学び 鍛え より高みへの挑戦～』という今年のスローガンを発表しました。ここにいる皆さんが松江農林高校で学んでいることに誇りを持ち、自分の成長に誇りを持ち、皆さんが高校生活を一生懸命自分で自分を鍛えながらより高い目標をもってさまざまなことに挑戦してほしいという願いからです。北海道遠別町の、遠別農業高校では高校生が育てる羊とその肉や加工品をふるさと納税の返礼品に用いたところ、納税額が当初の8倍にまで増加し、過疎に悩む小さな町が活性化し、遠別農業高校が地域の希望となっているという話を3学期の終業式で2年生、3年生に話しました。遠別農業高校が、地域の希望だと町の人はおっしゃっています。

私たち松江農林高校が地域の希望となるためには、まず皆さんがここでしっかり学ぶことです。学校生活や学校外での様々な活動をとおして自分を鍛え、皆さん自身がこの町でこの学校で輝くことです。学校で得た知識や技術をどんどん地域の人たちのために役立てることで、さらには皆さんがこれから学んでいく農業のこと、地域のこと、福祉のことなど自分の得意とする分野で、地域の課題を発見し、その課題と一緒に解決していこうとする気概を持つことです。答えがあってその答えにどれだけ正確に早くたどり着くかという力も大事なのですが、知識や技能を身につけることと同時に、正解のない課題を考え、解決に向けて企画し、実行するような力も身につけることです。そのような力をつけて将来のこの地域を支える人間となってください。本校にはそのような活動がたくさんできる場がありますし、創意工夫しながら新しいものを作っていくことができるような人たちは、本当に地域の希望なのでしょう。そのためには、挑戦すること、挑戦して失敗すること、失敗にめげず挑戦することが大事なんだろうと思っています。パナソニックの創業者である松下幸之助さんは「成功とは、成功するまでやり続けることで、失敗とは成功するまでやり続けないこと」という言葉を残しておられます。

どうか新入生の皆さん、本校の教育活動でしっかり3年間自分を鍛えてください。そして、地域の希望となるような人材に育ててください。そのための応援は私たち教職員は一生懸命行っています。

最後に保護者の皆様、本日のお子様のご入学誠にありがとうございます。子どもさんの成長のためには保護者の皆様と学校が連携しながら協力し、それぞれの役割を果たしていくことが大切です。改めて保護者の皆様には本校教育へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げ、新入生160名の皆さんが、本校で大きな花を咲かせて成長してくれることを願って式辞といたします。

平成30年4月10日

島根県立松江農林高等学校

校長 吉川 靖